

見分けることと不適格とすること

2010年7月25日 アシェル・イントレーター

見分けることと不適格とすることには違いがあります。聖書は、何が正しくて何が間違っているのを知るために、また正しいことを選び、間違ったことを除くためにすべてに関して見分けるように述べています。I テサロニケ 5:21-22「すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。悪はどんな悪でも避けなさい。」

イスラエルで過去数年間、私は主の体の指導者であった何人もの大事な兄弟たちが、自分自身や周りにいる人々に対して罪を犯し損害を与えているのを見てきました。私は何かがおかしいと心の中で以前から「感じ」てました。私は彼らと何気なく話しをしましたが、問題に完全に向き合わせることはできませんでした。振り返ってみると、私が霊で感じたことは実際そのとおりとなりました。

I コリント 12:10「ある人には異言を解き明かす力が与えられています。」

霊を見分ける賜物があります。私たちはこの賜物を発展させなければなりません。霊的な危険に気付くこと、そしてどのようにそれに対応するかです。私はこれらの兄弟たちに警告するなり、手を差し伸べるべきであったかと思うこともあります。私たちが何か問題があるなど感じた時、だいたいそれはあるのです。もし私たちが「何かきな臭いな」と思った時、そこに問題があるのです。

何か間違っているなど見つけた時、その人のために祈る必要があります。主が機会を与えて下さるなら、その人に手を差し伸べてもいいでしょう。または、彼らと別れ、離れる必要があるでしょう。

その一方で、私たちは共に働くよう召された兄弟姉妹たちを「不適格」としないよう注意しなければなりません。すべての人は何らかの問題があり、ある個人と緊密に働くと、私たちは辛くなったり、それらの短所についてイライラさせられるようになるのです。彼らの性格の欠点は私たちに対して一日中「叫ぶ」こともあるのです。

彼がベストを尽くして主に仕えているであろう時に、その兄弟をまったく不適格とする危険性があります。恐らく彼には継続した奨励や励ましが必要となるでしょう。しかしその兄弟は私たちの愛に値しない、そしてもうまったく「兄弟」ではないと結論付けてしまうこともあるのです。これは、イエシュアに対して、主の世代の中で何度も起こりました。ここにいくつかの例があり、主にヨハネによる福音書からです。

1. **背景** - ある者はイエシュアを不適格としました。それは、主がふさわしくない出身であったからです。「ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何の良いものが出るだろう。」ヨハネ 1:46. (ヨハネ 7:41と比較して下さい) 彼らの目には、主のアクセント、生活スタイル、育ちなどすべてがふさわしくありませんでした。

2. よく知られていること - ある者は、主は特別ではありえないと考えました。それは、主は単なる地元の大工であり、皆が主の妹たちや、家族全員を知っていたからです。「彼らは言った。「あれはヨセフの子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。どうしていま彼は『わたしは天から下って来た。』と言うのか。」ヨハネ 6:42. 「この人は大工の息子ではありませんか。彼の母親はマリヤで、彼の兄弟は、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではありませんか。妹たちもみな私たちといっしょにいるではありませんか。とすると、いったいこの人は、これらのものをどこから得たのでしょうか。」マタイ 13:55-56(一体どの聖職者が自分の妹たちの行動によって判断されたいと思うでしょうか。)
3. 動機付け - イエシュアの弟たちでさえ主の動機を疑いました。彼らは、主が有名になりたいという欲によって動機付けられていると思いました。「自分から公の場に出たいと思いながら、隠れた所で事を行なう者はありません。あなたがこれらの事を行なうのなら、自分を世に現わしなさい。」ヨハネ 7:4 時々、ある兄弟がとあるプロジェクトを推し進めているのを見て、私たちは彼が間違った動機でやっているにちがいないと思うのです。
4. 認定 - 時々、私たちはよく知られた人から承認されているかどうかで人を判断することがあります。「議員とかパリサイ人のうちで、だれかイエスを信じた者があったか。」ヨハネ 7:48 実際、ある人が学位を持っていたり、高く尊敬されている場合でも、その人が主のご意志を行っているとは限らないのです。他の人の承認は、それが良くても悪くても、私たちの評価を決めるものではありません。
5. うわさ - イエシュアは多くの者から不適格とされました。それは、主の母に関する性的不品行のうわさによるものでした。ほとんどの人は、主が処女から生まれたことを受け入れませんでした。「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。」ヨハネ 8:41 一見したところ主が婚外で生まれたという当てこすりは、主の子ども時代の間ずっと付いて回ったのでした。(ヨハネ 9:34 と比較して下さい)
6. 心理学的な問題 - 私たちはイエシュアがしたことや言ったことは神からのものと分かっていますが、主の周りにいた人は、主は狂っている、悪魔に取り憑かれた、または心理学的に不安定であると考えました。彼らのうちの多くの者が言った。「あれは悪霊につかれて気が狂っている。どうしてあなたがたは、あの人の言うことに耳を貸すのか。」ヨハネ 10:20. (ヨハネ 8:48-52 と比較して下さい)
7. 伝統 - イエシュアは十戒の違反である安息日を破ったことで非難されました。「すると、パリサイ人の中のある人々が、「その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ。」と行った。」ヨハネ 9:16 イエシュアは安息日を守らなかったではありません。問題は、彼らが期待した方法で主が守らなかったことでした。彼らはそれを罪と考えたのです。時々私たちは私たちが定めた常識に従わなかったということで人が罪を犯したと考えるのです。

もしある個人が実際に罪を犯したのであれば、その罪を取り扱う聖書的な順番があります。マタイ 18:15-17 「また、もし、あなたの兄弟が{あなたに対して}罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実

が確認されるためです。それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。」

マタイ18章の中にある5節に述べられているこの懲戒を行う過程は、他者に対する一方的な赦しを要求する30に近い節に囲まれています。これは非難や告訴の霊に陥ることに対する警告です。ここでは私たちの態度にバランスが求められていることが述べられています。

もしこの懲戒を行う過程が最後まで行われたら、違反をしたこの個人は、役員としても役割を共に担う任命を受けた指導者によって「交わりから外される」こともあります。しかし、心の中で個人的にある人を「除名」する権利は誰にもありません。ある者は実際、ある団体の全員を不適格とし、交わりから外したため、彼らの街のいずれのコングリゲーションに行くことができなくなりました。

間違った霊を見分けることに恵みと勇気を使い、懲戒の過程に協力し、自分の心で兄弟や姉妹たちを不適格としないようにしましょう。